

見学・体験概要

受入人数／最大120名まで
(1グループあたり40名に分かれて3グループまで)
受入期間／5月～2月まで
(8月のお盆期間と年末年始の期間は除く)
受入時間／午前9時から午後4時まで
所要時間／約2時間20分



対象／小・中・高校生
料金／小学生一人200円、
中・高校生一人500円(資料代ガイド料込み)
食事／お弁当の提供可能

見学できる施設



第1ワークセンター(通称:別府工場)



第2ワークセンター
(通称:スーパーマーケットサンストア)



就労継続支援B型



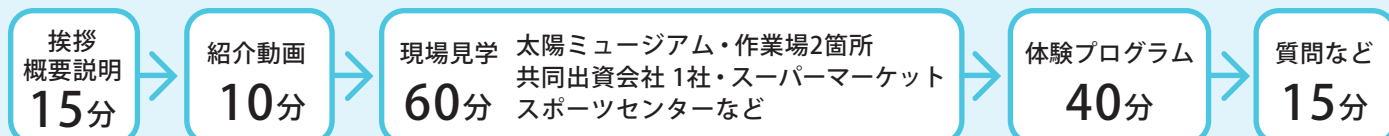
共同出資会社

太陽ミュージアム ～No Charity, but a Chance!～

2020年3月に創設者の中村裕博士が唱えた「No Charity, but a Chance!」の精神をより多くの人に伝える「太陽ミュージアム」が完成しました。中村博士や太陽の家についての展示に加え、障がいのある方の暮らしや仕事、スポーツを体験し、その工夫と楽しさなどを知ることができます。



モデルコース



体験者の声

生徒にとって、障がいがあっても人間としての尊厳が保たれる社会を目指すとはどういうことなのかを考える良い機会であったと思います。企業や銀行、住宅、スーパーマーケット等々、障がいがある人にもない人にも対応できる環境が、日本中のどこにもある普通の景色になれば良いと思います。(高校教員)

【アクセス】

バス
小倉駅 東九州自動車道経由
約1時間40分
大分空港 大分空港道路経由
約40分



社会福祉法人 太陽の家

〒874-0011
大分県別府市大字内籠1393番2
TEL.0977-66-0277 / FAX.0977-67-0453
<http://www.taiyonoie.or.jp>
mail:info@taiyonoie.or.jp



大分県教育旅行の
お問い合わせ先

公益社団法人ツーリズムおおいた

〒870-0029 大分県大分市高砂町2番50号 OASISひろば21 3F
開所時間／平日 9:00～17:45(土・日・祝日を除く)
<https://oita-story.com> mail: tourism@we-love-oita.or.jp

TEL.097-536-6250

FAX.097-536-6251

教育旅行用資料



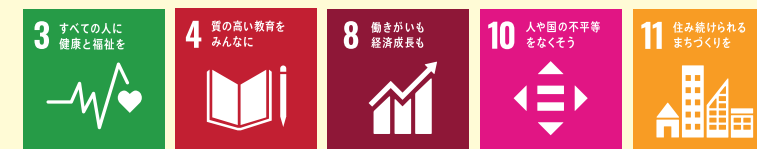
社会福祉法人 太陽の家

No Charity, but a Chance!

保護より機会を



太陽の家での体験を通して学べるSDGs



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成されています。

太陽の家とは

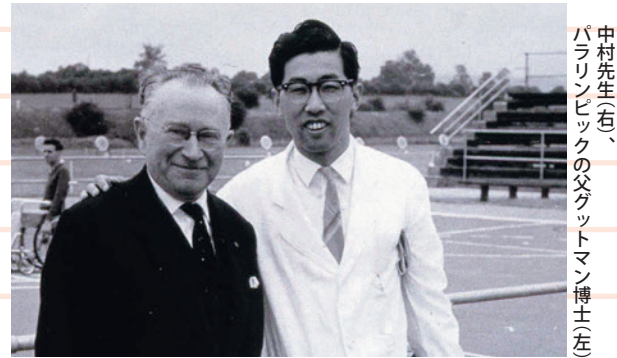
「No Charity, but a Chance! (保護より機会を)」という理念のもと、整形外科医の中村裕博士が1965年に大分県別府市に創設した社会福祉法人です。創立以来、障がい者の働く場づくりやユニバーサルな環境づくりに取り組んでいます。



創設者・中村裕博士について

衝撃を受けたイギリスでの研修

太陽の家の創設のきっかけとなったのが1960年のイギリス ストーク・マンデビルでの研修でした。当時の日本では、骨折した骨を元通りにつなげれば、それで名医として評価されていました。しかし、イギリスでは、病気やけがの治療だけでなく、労働者としての人間的な教育や訓練をしながら、患者を社会に送り出すという現在では当たり前のこととなったリハビリテーションのシステムが確立していました。



中村先生右、
パラリンピックの父グットマン博士左

身障者スポーツは社会参加の早道

中村先生は帰国してすぐ身障者スポーツの普及に取り組み、1961年、日本ではじめて、大分県身体障害者体育協会をつくり、第1回大会を開催しました。ところが、半数以上のマスコミから「身障者を大勢の人の前にさすなんて、それでも医者か」と猛反対を受けました。しかし、身障者が自分の力で行きたい場所へ移動したり、生活していくためには、腕力や全身の体力をつけることが必要なことや、スポーツをとおして仲間を増やしたり、自分に自信を持つことで心のリハビリにもなり、社会復帰を早める最大の方法として、粘り強く取り組みました。

中村先生が提唱し、実現した大分国際車いすマラソンは世界最大、最高峰のレースとして毎年開催



東京パラリンピックでの気づき

中村先生の地道な努力が1964年の東京パラリンピックの誘致へと導きましたが、大会をとおして新たな問題にも直面しました。外国選手は働く職場があり、競技終了後に買い物や食事に出かけ自由に使えるお金がありましたが、日本選手には働く職場がなく自由に使えるお金がありませんでした。障がい者の社会進出、つまり、障がい者が働く場が必要なことに気づいたのです。

障がい者が働き、自立する場として、1965年に太陽の家を設立



開所当時の太陽の家 玄関

世に身心障がい者はあっても 仕事に障がいはありえない

中村先生は、単なる同情や保護だけでなく、身障者が真の幸福をえるため、残存機能を十分にいかして、自ら社会に溶け込む意志力と実力を育てることに加え、身障者が働く環境と機会をつくることに奔走しました。当初は、簡単な竹工芸や木工といった利益の少ない仕事しかありませんでしたが、「われわれの働きで、われわれの生活を向上し、よりよい社会を作りましょう」という社憲を掲げていたオムロン株式会社の協力を得て、共同出資会社オムロン太陽株式会社が誕生し、重度の障がいをもった人たちは必死に働き、1年目から黒字の業績を出したのです。

太陽の家と企業が
出資金を出し合った
共同出資会社は
現在8社



共同
出資
会社

- オムロン太陽株式会社
- デンソー太陽株式会社
- ソニー・太陽株式会社
- オムロン京都太陽株式会社
- ホンダ太陽株式会社
- ホンダR&D太陽株式会社
- 三菱商事太陽株式会社
- 富士通エフサス太陽株式会社

学習テーマ

太陽の家では、下記のテーマを学ぶことができます。

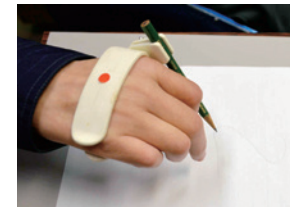
ユニバーサルデザイン

【事前学習】

- ユニバーサルデザインの原則とは何か
- ピクトグラムにはどのような意味があるか
- 身の回りや社会の中のユニバーサルデザインにはどのようなものがあるか

【体験プログラム】

車いす体験、自助具体験



【体験をとおして得るもの】

思いやりのある人間性を育む

障がい者の雇用促進

【事前学習】

- 自分が住んでいる町に障がいを持っている人がどれくらいいるか
- 障がいを持っている人はどのような職場で働いているか
- 障がいを持っている人の雇用を増やすためにはどのような取組が必要か

【体験プログラム】

職場見学 (障がいを補う治工具など)



【体験をとおして得るもの】

働くことの意義や楽しさを感じ取る

地域共生社会

【事前学習】

- 地域の中にはどのような不便があるか
- 障がいを持っている人が生活しやすい町とはどのようなものか
- 困っている人にどのような手助けが必要か

【体験プログラム】

スーパーマーケットや銀行などの見学



【体験をとおして得るもの】

地域の助け合いのなかで、自立して暮らすこと

障がい者スポーツ

【事前学習】

- 障がい者スポーツをする理由にはどのようなものがあるか
- 障がい者スポーツにはどのようなものがあるか
- 安全面でどのような配慮が必要か
- パラリンピックにはどのような意味があるか

【体験プログラム】

卓球バレー、ボッチャ など



【体験をとおして得るもの】

誰もが楽しく健康に暮らし、生きていく